

# 徳島人



徳島県庁から県道徳島小松島線を東に進むこと数百メートル、県労働者福祉協議会がある。「わーくびあ徳島」と、隣接する「ビューマンわーくびあ徳島」の二つの会館がある。

**兼松 文子** (県労働者福祉協議会事務局次長)

求職者、再就職支援講習を受ける子育て中の女性、運転免許取得講座に通う障がい者、就労支援日本語講座で学ぶ外国人、NPO法人が障がい者と共に運営するレストランに来店する人ら多様な人々が行き交う。週末には、働きながら資格取得を目指す人、「うたごえ広場」を楽しみに訪れる高齢者、「子ども食堂」にやって来る子どもたちと学習支援をする大学生、「フードバンク」に食材を届ける人や受け取りに来る人、福祉金融機関の休日相談会に足を運ぶ人たちの姿

## 「何でもある」。

がある。協議会で働いて17年、このような日常が当たり前になっていたけれど、改めて会館の存在や役割に気づかされる出来事があった。ある日、会館内にあるファミリー・サポート・センターに子どもを迎えに来た若い母親と「お疲れさまです」と言葉を交わした。センターの職員が「外国人のお母さんもここで日本語を勉強しているんですよ」と、担当する私を紹介した。「ここには何でもあるんですね」と言っている若い母親は笑顔を向けた。その言葉に心が揺さぶられた。この場所で目標を見いだし、自己実現に挑戦し、可能性を開花させ働く場所や居場所を得た人たちのことが重なった。「何でもある」。今も時折この言葉を自問する。「困り事があっても、ここに来れば何とかなる」「いざというときには、ここが あるから、もう少し頑張ってみよう」。そんな安心や希望を抱ける共助・共済・共生の場所が至る所にある地域社会の在り方を、これからも「わーくびあ」から発信していきたい。